

講義概要

SYLLABUS

令和6年度

2年生

歯科衛生学科

神戸リハビリテーション衛生専門学校

KOBE COLLEGE OF REHABILITATION AND HEALTH

科目名	臨床英会話	
講師	竹本 朋代	語学、ビジネス、メディアの専門学校での英語非常勤講師歴10年以上の経験があります。傍ら、フリーランスとして翻訳、商談通訳、外国人アテンド通訳、通訳ガイド、HR会社国際部リーダーとして英語に携わる仕事に従事しています。
学年・期	2年生前期. 2単位. 30時間（講義）	

講義目標 外国人の患者様が受診された時にも慌てずに対応できるように、歯科の英語表現を学ぶ。

授業計画	内容
第1回	Introduction 1.Handling calls at reception 2.Service at reception
第2回	3.Caring for the patient 4.Consultation (Questions about pregnancy and breastfeeding)
第3回	5. In the X-ray room 6.Pulpectomy
第4回	7. Dental extraction 8.Payment and next appointment at reception
第5回	9.Gum disease 10.Periodontal examination
第6回	11.Toothbrushing instruction 12.Scaling
第7回	13. Maintenance 14.Explanations on dental cavities
第8回	15.Fluoride application 16.Dental treatment for children
第9回	17.Dental composite restoration 18.Infected root canal treatment
第10回	19.Crown restoration 20.Bridge
第11回	21.False teeth 22.Dental implant treatment
第12回	23.Orthodontic treatment 24.Tooth whitening
第13回	25.Temporamandibular Joint Disorders 26.Stomatitis
第14回	27.Bad breath 28.Questions on COVID-19, When the patient has a fever
第15回	Test , Assessment

履修上の注意 進捗状況や難易度によって調節を必要とする可能性があります。

成績評価 平常の授業態度、積極性、学期末のアセスメントによって評価します。 単位認定者：竹本

テキスト 医歯薬出版 歯科医院での実用英会話 第3版 音声DL付

参考図書
その他

科目名	衛生・公衆衛生学
講師	関根 伸一 病院歯科予防歯科、障害者歯科治療部、医療情報部で歯科医師として勤務経験を有しており、歯科衛生士養成機関においても教育経験がある。さらに、口腔衛生学会認定医の経験を活かし口腔衛生学の講義をする。
学年・期	2年生前期、2単位、30時間（講義）

講義目標 「保健医療の実態」「予防医学の概念」「社会的環境要因と健康との関係」を理解することを目的とする。

授業計画	内容
第1回	医療倫理について学ぶ。 「プライマリヘルスケア」「ヘルスプロモーション」「健康日本21」について理解する。
第2回	「健康、予防の概念」と「社会環境」について学ぶ。 「予防医学」「予防の3相5段階」について理解する。
第3回	疫学とその応用 「宿主要因」「環境要因」「記述疫学」「分析疫学」「介入研究」について理解する。
第4回	スクリーニング検査 「偽陽性」「偽陰性」「ROC」について理解する。
第5回	人口統計 「人口静態統計」「国勢調査」「人口ピラミッド」「老年人口指数」について学ぶ。
第6回	健康と環境 「PM2.5」「感覚温度」「水質基準」「感染性廃棄物」について学ぶ。
第7回	感染症 「新興感染症」「ノロウイルス」「黄色ブドウ球菌」「サルモネラ」について学ぶ。
第8回	食品と健康 「食育」「食事バランスガイド」「食中毒」について学ぶ。
第9回	社会保障 「ヘルスプロモーション」「ノーマライゼーション」「健康日本21」「保健所」について学ぶ。
第10回	地域保健 「地域保健法」「保健所」「市町村保健センター」について学ぶ。
第11回	母子保健 「母子健康手帳」「1歳6か月児健診」「3歳児健診」「児童虐待」について学ぶ。
第12回	学校保健 「保健教育・保健管理」「CO」「GO」「生きる力」について学ぶ。
第13回	成人保健・産業保健 「生活習慣病」「特定健康診査」「健康増進法」「トータルヘルスプロモーション」について学ぶ。
第14回	高齢者保健 「ADL」「JADL」「介護保険」「老人福祉」「地域包括支援センター」について学ぶ。
第15回	国際保健・災害時保健 「SDGs」「WHO」「災害関連死」「フェーズ」について学ぶ。

履修上の注意

成績評価 授業への取組や姿勢 20% 定期試験 80% 単位認定者：関根

テキスト 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組みⅠ 保健生態学

参考図書
その他

科目名	衛生行政・歯科統計学		
講師	高山 由希 (衛生行政) 岡 真太郎 (衛生統計学)	大阪歯科大学卒業後、予防歯科・口腔衛生学を専攻して博士(歯学)を取得後、スイス・ジュネーブにある世界保健機関に1年間短期講師として従事。その後、公益財団法人ライオン歯科衛生研究所にて20年間口腔保健の仕事に携わりました。皆さんの未来に役立つお話ができたらうれしく思います。(高山) 大阪大学歯学部卒(歯科医師)、大阪大学大学院歯学研究科修了(博士(歯学))阪大学歯学部附属病院オーラルデータサイエンス共同研究部門特任助教 AI・機械学習を用いた研究を行っている。(岡)	
学年・期	2年生前期、2単位、30時間(講義)	衛生行政	16時間 歯科統計学 14時間
講義目標	歯科医療及び医療に必要な法や社会の仕組みを法律等の観点より学ぶ。(衛生行政) 歯科衛生士が遭遇する統計等の情報処理方法を習得できる。(歯科統計学)		
授業計画	内容		
第1回	衛生行政と法制概論		
第2回	歯科衛生士法、歯科医師法、歯科技工士法など		
第3回	医療法総論		
第4回	医療法各論と衛生行政の仕組み		
第5回	地域保健法・健康増進法および地域保健に関わるライフステージ別施策①		
第6回	地域保健法・健康増進法および地域保健に関わるライフステージ別施策②		
第7回	医療の動向		
第8回	まとめ		
第9回	疫学 疫学総論		
第10回	歯科疾患の指標 齲蝕・歯周病の疫学 齲蝕の指標 歯周病の指標		
第11回	歯科疾患の指標 口腔清掃状態の指標		
第12回	衛生統計の基礎 情報の収集・疫学調査の進め方 スクリーニング・尺度・代表値		
第13回	衛生統計の基礎 散布度・度数分布表・集計		
第14回	データの分析方法 相関・検定・結果の解釈 研究journalから読み解く 歯科衛生士業務と関連するエビデンスの紹介		
第15回	歯科保健統計 国家統計調査 まとめ 定期試験対策		
履修上の注意	4回の講義で歯科保健に関係する行政施策の仕組みと関連する法律についてお話します。近年重要性が増している分野ですので、講義中は集中して理解するよう、努力してください。(衛生行政)		
成績評価	定期試験(衛生行政)	毎回理解確認小試験実施(加点対象)、定期試験(歯科統計学)	
	単位認定者：高山 岡		
テキスト	医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 保健・医療・福祉の制度		
参考図書 その他			

科目名	歯科補綴学	
講師	油谷 征彦	これまで多数の歯科衛生士養成機関専門学校において高齢者歯科学・歯科矯正学や歯科補綴学の講義を担当し教育経験を有している。現在、明石市で医療法人愛進会ゆたに歯科クリニックを開業、以上の経験をもって講義を展開する。
学年・期	2年生前期、2単位、30時間（講義）	

講義目標 歯科衛生業務を行うために必要な補綴学を理解することを目的とする。

授業計画	内容
第1回	歯科補綴概要
第2回	歯科補綴治療の基礎知識
第3回	歯科補綴治療の基礎知識
第4回	歯科補綴治療における検査
第5回	クラウン・ブリッジ治療
第6回	クラウン・ブリッジ治療
第7回	クラウン・ブリッジ治療
第8回	有床義歯治療
第9回	有床義歯治療
第10回	有床義歯治療
第11回	インプラント治療
第12回	インプラント治療
第13回	インプラント治療
第14回	特殊な口腔内装置を用いる治療
第15回	補綴歯科治療における器材

履修上の注意

成績評価 平常点 定期試験 単位認定者：油谷

テキスト 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯科補綴学

参考図書
その他

科目名	口腔外科学・歯科麻酔学		
講師	児玉 秀樹 (口腔外科学) 角野公紀 (歯科麻酔学)	大阪歯科大学卒大学院卒 慶応義塾大学大学院卒 歯科医師歯学博士 MBA 大学歯学部や多くの歯科衛生士学校で教鞭を取る(児玉) 講師は歯科衛生士養成機関において10年以上の教育歴、歯科臨床において10年以上の実務経験を有する。歯科衛生士が業務を行う上で対象とする主要な疾患について、実際の臨床と関連づけて講義する。(角野)	
学年・期	2年生前期、2単位、30時間(講義) 口腔外科学：16時間 歯科麻酔学：14時間		

講義目標 口腔外科は、口腔、顎顔面の諸器官、機能に直結する疾患を扱い、全身疾患を有している患者の歯科治療なども取り扱う。本講義では、病院での口腔外科などについても論ずる。(口腔外科学) 局所麻酔、全身麻酔、精神鎮静法、有病者の歯科治療時の注意点について理解する。(歯科麻酔学)

授業計画	内容
第1回	顎顔面領域の疾患 口腔外科総論 わが国の口腔外科
第2回	顎顔面領域の疾患 先天異常 損傷 粘膜疾患
第3回	顎顔面領域の疾患 炎症 嚢胞 腫瘍 顎関節
第4回	口腔外科疾患の実際 診察と診断 全身疾患
第5回	口腔外科診療の実際 口腔外科の準備 基本手技
第6回	口腔外科疾患の実際 小手術
第7回	歯科衛生士が担う周術期の口腔健康管理
第8回	国家試験問題より口腔外科を学ぶ
第9回	歯科麻酔学総論1(歯科麻酔とは)
第10回	歯科麻酔学総論2(バイタルサイン)
第11回	歯科麻酔学各論1(全身麻酔)
第12回	歯科麻酔学各論2(精神鎮静法)
第13回	歯科麻酔学各論3(局所麻酔)
第14回	歯科麻酔学各論4(基礎疾患)
第15回	歯科麻酔学各論5(基礎疾患)

履修上の注意 事前に教科書を読んで置く事。質問に関してはメール等を用いる。(口腔外科学)

成績評価 定期試験成績と出席発言積極性を評価する。(口腔外科学)・レポートおよび期末試験(歯科麻酔学)
単位認定者：児玉 角野

テキスト 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学 第2版

参考図書
その他

科目名	小児歯科学・歯科矯正学		
講師	河崎 真也	小児歯科・矯正歯科クリニックで日々診療に従事し、歯科医師臨床研修指導医として後継の教育にも力を注いでいる。令和6年3月に大阪大学歯学部大学院を卒業し、博士号を取得した。これまでの成果、経験を活かし小児歯科学・歯科矯正学を講義する。	
学年・期	2年生前期、2単位、30時間（講義）	小児歯科学	14時間 歯科矯正学 16時間
講義目標	履修科目への意義を持つ。歯科衛生士として必要な教育内容を学び理解する。 小児歯科学・矯正歯科治療の概論と理論を理解する。 口腔領域の成長・発達・口腔疾病や異常・予防法を理解する。 小児歯科診療体系の流れ・矯正歯科治療の実態を知り理解を深める。 小児歯科診療・矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割を理解し業務との関係を説明できる。 小児への医療理論を理解し患者に対するインフォームドコンセントを学ぶ。		
授業計画	内容		
第1回	オリエンテーション I 編小児歯科診療の基礎知識	1章 小児歯科学概論	
第2回	2章 心身の発育	3章 小児の生理的特徴	
第3回	4章 顔面頭蓋の発育	5章 歯の発育とその異常	
第4回	6章 歯列・咬合の発育と異常	7章 小児歯科疾病	
第5回	II 編 各論 2章 小児歯科における者との対応法	1章 小児期の特徴と歯科的問題点 3章 小児歯科診療体系の流れ	
第6回	8章 障がい児の歯科治療 III 編 小児歯科診療における歯科衛生士の役割 1章 診察・検査士の業務	2章 う蝕予防	
第7回	3章 小児歯科診療における診療補助 5章 歯科診療室と器材管理	4章 小児の口腔保健管理 小児歯科診療の実際	
第8回	ガイダンス I 編矯正歯科治療に関する基礎知識 2章 成長発育	1章 矯正歯科治療の概要 3章 正常咬合と不正咬合	
第9回	4章 矯正歯科診断 5章 矯正歯科治療と力－矯正力・顎整形力・保定－		
第10回	6章 矯正装置 I	7章 矯正装置 2	
第11回	II 編矯正歯科治療の実際 1章 上下顎の前後的關係の不調和	3章 上下顎の垂直的關係の不調和	
第12回	4章 成人矯正・口腔顎顔面の形成異常と変形 6章 歯の埋伏と歯数の異常・矯正歯科治療児時のトラブル		
第13回	8章 健康保険が適用される矯正歯科治療 III 編 矯正歯科治療臨床における歯科衛生士の役割 2章 矯正歯科診断にかかわる業務・矯正歯科診療補助時の業務	4章 矯正歯科患者と口腔保健管理	
第14回	5章 口腔筋機能療法 I・2 / 器材、資材、文書の管理		
第15回	まとめ 定期試験対策		
履修上の注意	毎回の復習を必ず行うこと、授業の小テストに備える。		
成績評価	前回授業の小テスト（加点点評価）	定期試験など	単位認定者：河崎
テキスト	医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 小児歯科学 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯科矯正学 第2版		
参考図書 その他			

科目名	高齢者歯科学	
講師	児玉 秀樹	講師略歴 大阪歯科大学卒大学院卒 慶応義塾大学大学院卒 歯科医師歯学博士 MBA 大学歯学部や多くの歯科衛生士学校で教鞭を取る高齢者は、身体機能および口腔機能が低下し全身疾患を有するなどの特徴がある。こういった高齢者の口腔機能を維持・向上させて管理する役割を修得することを目的とする。
学年・期	2年生前期、2単位、30時間（講義）	

講義目標 歯科衛生士のための高齢者歯科、訪問歯科、摂食嚥下について学ぶ。

授業計画	内容
第1回	高齢者を取りまく社会と環境 1章2章
第2回	高齢者を取りまく社会と環境 3章4章
第3回	加齢による身体的・精神的変化と疾患 1章～3章
第4回	高齢者の状態の把握 1章 ADL BDR 長谷川式 MMSE
第5回	高齢者の状態の把握 2章3章 CDR FAST
第6回	口腔健康管理 1章～3章 OHAT ” 歯科診療補助論 P325”
第7回	口腔健康管理 4章～6章 ” 歯科診療補助論 P325”
第8回	口腔健康管理 4章～6章 ” 歯科診療補助論 P325”
第9回	摂食嚥下リハビリテーション 1章 5期モデル
第10回	摂食嚥下リハビリテーション 1章 RSST MWST FT 咳テスト
第11回	摂食嚥下リハビリテーション VE VF
第12回	摂食嚥下リハビリテーション リハビリテーション手法
第13回	高齢者に関わる医療と介護、高齢者歯科における歯科衛生士の実践
第14回	国家試験問題より高齢者歯科摂食嚥下リハビリテーションを学ぶ
第15回	国家試験問題より高齢者歯科摂食嚥下リハビリテーションを学ぶ

履修上の注意 事前に教科書を読んで置く事。質問に関してはメール等を用いる。

成績評価 単位試験問題成績と出席発言積極性を評価する。 単位認定者：児玉

テキスト 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学

参考図書
その他

科目名	障害者歯科	
講師	藤村 梨恵子	大学病院で歯科麻酔、障害者歯科治療に従事。その後アメリカ国立衛生研究所の研究員を経て現在、西宮北口歯科口腔外科にて障害者歯科を専門として診療に携わる。
学年・期	2年生前期、2単位、30時間（講義）	

講義目標 障害者の種類と特性を理解し、歯科医療時に必要な知識を習得する。

授業計画	内容
第1回	障害者歯科 ガイダンス
第2回	障害の基礎
第3回	精神発達、心理的発達と行動障害Ⅰ
第4回	精神発達、心理的発達と行動障害Ⅱ
第5回	運動、感覚障害Ⅰ
第6回	運動、感覚障害Ⅱ
第7回	精神及び行動の障害
第8回	歯科医療時に配慮すべきその他の疾患
第9回	障害者に対する歯科医療、行動調整Ⅰ
第10回	障害者に対する歯科医療、行動調整Ⅱ
第11回	障害者に対する歯科医療、行動調整Ⅲ
第12回	障害者に対する口腔衛生管理
第13回	摂食、嚥下リハビリテーションと口腔機能管理
第14回	地域における障害者歯科
第15回	総括

履修上の注意

成績評価 定期試験および受講態度によって総合的に判断する 単位認定者：藤村

テキスト 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 障害者歯科学

参考図書
その他

科目名	歯科予防処置論Ⅲ	
講師	山下 快子 久保田 千尋	歯科クリニックでの勤務、DHセミナーの講師・歯科衛生士月刊誌の連載も経験あり。フリーランス歯科衛生士として医院のスタッフ教育にも携わる。歯科衛生士養成機関での教育経験も有する。現在、西宮北口歯科口腔外科において人財育成部歯科衛生士長として新入社員研修での歯科衛生士実技・座学講義・実習を担当している。
学年・期	2年生前期、2単位、60時間（講義・演習）	
講義目標	歯周ポケットの測定を正確にできるようになり歯肉の状態を把握することができる。その数値をもとにグレーシーキュレットを口腔内で正確安全に操作できる。グレーシーキュレットスケーラーのシャープニングが出来る。超音波スケーラー・エアースケーラーの適応症を理解し正確安全に操作が出来る。歯面清掃器の適応・使用目的を理解し安全に操作できる。患者様の歯周病改善・歯周組織の健康維持の手助けになれるよう、基本的な手技・手順を学び臨床で活かせる技術を身に付ける。	
授業計画	内容	
第1回	歯・歯周組織の診査（診査・診査用器具について④ ファントーム実習）	
第2回	相互実習① 歯・歯周組織の診査（プロービング演習）	
第3回	グレーシーキュレットに関する基礎知識と基本操作方法（講義）	
第4回	グレーシーキュレットの操作方法①②（ファントーム実習） 11-13 21-23 31-33 41-43	
第5回	グレーシーキュレットの操作方法③（ファントーム実習） 14-17 24-27	
第6回	グレーシーキュレットの操作方法③（ファントーム実習） 44-47 34-37	
第7回	グレーシーキュレットの操作方法④（ファントーム実技テスト）総括	
第8回	相互実習②（プロービング・グレーシータイプスケーラー）	
第9回	キュレットスケーラーシャープニング 全種（講義/実習）	
第10回	超音波スケーラー・エアースケーラー操作方法（講義）	
第11回	超音波スケーラー・エアースケーラー操作基礎方法（ファントーム実習）	
第12回	相互実習③（超音波スケーラー・エアースケーラー）	
第13回	歯面清掃器（エアポリッシャー）操作方法（講義/ファントーム実習）	
第14回	歯面清掃器（エアポリッシャー）操作基礎実習（ユニット室）	
第15回	総括・定期試験対策	
履修上の注意	持ち物・白衣着用など事前指示があります。講義開始時間前に指定教室に待機。	
成績評価	ペーパーテスト80点 平常点（実技・ロールプレイング・発表）20点 単位認定者：山下 久保田	
テキスト	医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論	
参考図書 その他	医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯周病学 1回…90分×2(180分)とする	

科目名	歯科保健指導論Ⅲ	
講師	徳山 貴子	病院歯科口腔外科、歯科クリニックで歯科衛生士として勤務経験を有しており 歯科衛生士養成機関においても教育経験がある。さらに対人援助において人間科学の 研究成果を活かし歯科保健指導論の講義をする。
学年・期	2年生前期、1単位、30時間（講義・演習）	
講義目標	各ライフステージ別の対象者の一般的特徴と口腔の特徴および歯科保健行動を理解する。 歯科衛生介入を通して、これまで学習したすべての知識・技術を使いブラッシング指導モデルの取 り組みから、その成果を考察することができる。 歯・口腔の健康の担い手として、総合的な健康への適切な支援を考えることができる。	
授業計画		内容
第1回	ライフステージに対応した歯科衛生介入①	ライフステージについて/青年期Ⅰ
第2回	ライフステージに対応した歯科衛生介入②	青年期Ⅱ/成人期
第3回	ライフステージに対応した歯科衛生介入③	総合的学習/歯周病
第4回	ライフステージに対応した歯科衛生介入④	
第5回	歯科衛生過程 計画立案	ブラッシング指導モデル実習の計画・アセスメント /相互実習オリエンテーション
第6回	ライフステージに対応した歯科衛生介入⑤	
第7回	歯科衛生過程 歯科衛生介入	ブラッシング指導モデル実習 TBI（相互実習）
第8回	ライフステージに対応した歯科衛生介入⑥	
第9回	歯科衛生過程 歯科衛生介入	ブラッシング指導モデル実習 評価（相互実習）
第10回	ライフステージに対応した歯科衛生介入⑦	歯科衛生過程 歯科衛生評価 総括
第11回	ライフステージに対応した歯科衛生介入⑧	乳幼児期・学童期Ⅰ
第12回	ライフステージに対応した歯科衛生介入⑨	乳幼児期・学童期Ⅱ/相互実習オリエ
第13回	ライフステージに対応した歯科衛生介入⑩	乳幼児期・学童期Ⅲ（相互実習）
第14回	ライフステージに対応した歯科衛生介入⑪	老年期/障がい者
第15回	ライフステージに対応した歯科衛生介入⑫	禁煙指導/総括
履修上の注意	授業後レポート及び課題の提出期日は厳守とする。授業資料はファイリングをする。 体調管理に努めて授業への積極的な取り組みを期待します。	
成績評価	課題レポート、定期試験により総合的に判断する。	単位認定者：徳山
テキスト	医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論	
参考図書 その他	医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組みⅠ 保健生態学	

科目名	栄養指導	
講師	橋本 通子	1987年より管理栄養士として医療期間で栄養指導や企業や市民等に向けて栄養改善事業を行っている。2012年度より歯科衛生士養成校へ「栄養学」と「栄養指導論」の授業を行っており、2022年度より大阪府歯科医師会の主催する8020推進アンバサダー事業の推進委員として活動をおこなっている。
学年・期	2年生前期、2単位、30時間（講義）	

講義目標 我が国における現代の健康と食生活に関する問題や課題（生活習慣病、歯周病、低栄養等）と、歯科衛生士が必要とする栄養指導の知識と技法について栄養学を基に展開し具体的に学び、事例を通して栄養指導が実際にできるよう演習を中心に授業をおこなう。

授業計画	内容
第1回	国民の健康と栄養の現状 復習と課題抽出
第2回	課題：国民の健康と栄養の現状 課題解決について
第3回	国民健康づくりにおける食生活改善の取り組みについて（食事バランスガイド、健康日本21、食育基本法他）
第4回	演習：3日間の食事記録による食事バランスガイド作成 問題のある食事への食事指導、1日に必要な食品構成
第5回	栄養素の役割と消化吸収（糖質・脂質・たんぱく質）
第6回	栄養素の役割（ビタミン・ミネラル・水）、食事摂取基準
第7回	食品とう蝕誘発性（幼児期・学童期）
第8回	演習：虫歯予防の媒体作成と栄養指導
第9回	歯周病と食生活（成人期）、歯周病と疾患との関連について
第10回	演習：歯周病予防のための媒体作成と栄養指導
第11回	咀嚼と食品（高齢期）
第12回	演習：咀嚼嚥下のための栄養指導、低栄養予防のための献立作成
第13回	特別用途食品と保健機能食品
第14回	演習：特別用途食品・保健機能食品を調べてみよう
第15回	まとめ

履修上の注意

成績評価 レポート提出の評価：30点 試験問題：70点 単位認定者：橋本

テキスト 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 栄養と代謝
医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論
新食品成分表FOODS（2023年度版）

参考図書
その他

科目名	歯科診療補助論Ⅲ	
講師	徳山 貴子 久保田 千尋 松岡 研二	病院歯科口腔外科、歯科クリニックで歯科衛生士として豊富な臨床経験を有しており歯科衛生士養成機関においても教育経験がある。(徳山貴子) 歯科衛生士として臨床経験25年、歯科医院で働く。教員として17年、主要3科目を教授してきた。臨床経験、教育現場経験を生かし講義を展開する(久保田千尋)
学年・期	2年生前期、2単位、60時間(講義・演習)	
講義目標	歯科診療を安全かつ円滑に行うため、歯科診療チームの一員としての役割を学ぶ。歯科診療を行うにあたり、歯科衛生士として必要な基本的事項及び使用される器具、材料、薬品の名称、使用法を理解する。それにより歯科医師と共同して円滑な歯科診療が行えるようになることを目指す。	
授業計画	内容	
第1回	セッティング実習①(保存修復時の診療補助①)	
第2回	セッティング実習②(保存修復時の診療補助②)	
第3回	セッティング実習③(歯内療法の診療補助①)	
第4回	セッティング実習④(歯内療法の診療補助②)	
第5回	セッティング実習⑤(補綴治療の診療補助)	
第6回	口腔内写真撮影①	
第7回	セッティング実習⑥(小児歯科・矯正歯科の診療補助)	
第8回	歯科材料の取り扱い(暫間被覆冠作製)	
第9回	セッティング実習⑦(口腔外科治療の診療補助①)	
第10回	セッティング実習⑧(口腔外科治療の診療補助②)	
第11回	セッティング実習 総復習	
第12回	中間テスト(セッティング実習)	
第13回	中間テスト(セッティング実習)	
第14回	歯科訪問診療における対応①	
第15回	車椅子体験実習	
履修上の注意	レポート及び課題の提出期日は厳守とする。 体調管理を整え授業に取り組んでください。実技技術を身につけるため自主練習を重ねてください。積極的な取り組みを期待します。	
成績評価	課題レポート、実技試験、定期試験により総合的に判断する。 単位認定者：徳山 久保田	
テキスト	医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 クインテッセンス出版 おしごとハンドブック	
参考図書 その他	医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯科材料 1回…90分×2(180分)とする	

科目名	歯科理工・歯科放射線学	
講師	松岡 研二 (歯科理工) 村上 秀明 (歯科放射線)	学会や講習会に参加し、技工技術、歯科の知識を一層向上させる。時代のニーズに合わせてデジタルとアナログを駆使し、審美的かつ機能的な補綴物をつくり歯科技工士として25年以上の実績がある。ラボ内では歯科衛生士と共通する歯科材料も取り扱っており、歯科理工学を習得した経験を生かして講義を展開する。(松岡) 現在、大阪大学大学院歯学研究科歯科放射線学講座の教授で歯科放射線学に関する教育と研究の経験年数は30年以上である。同時に大阪大学歯学部附属病院放射線科の科長として臨床経験も30年以上である。(村上)
学年・期	2年生前期、2単位、30時間(講義・演習) 歯科理工学：14時間 歯科放射線学：16時間	
講義目標	歯科で使用される材料は、多種多様で非常に多い。これらの材料を、理工学的性質を理解した上で使用できる臨床家を目指す。また後半では、基本的な補綴物を理解し、デジタル・アナログ、多様化する歯科医療に対応出来る知識を習得する。(歯科理工) 歯科医療においてエックス線を用いた画像診断は大変重要で、歯科衛生士として画像検査に携わる頻度は極めて高い。エックス線を含めた放射線について理解し、検査に関する知識・技術を修得することを目的とする。(歯科放射線)	
授業計画	内容	
第1回	歯科材料の概要と理工学的性質について	
第2回	印象材・模型用材料の特徴と取り扱い①	
第3回	印象材・模型用材料の特徴と取り扱い②	
第4回	合着・接着剤・形成歯冠修復材・暫間修復材について	
第5回	その他の材料、ワックス・歯冠修復用材料・義歯用材料①	
第6回	その他の材料、ワックス・歯冠修復用材料・義歯用材料②	
第7回	臨床歯科技工・補綴物の制作過程・I O S～デジタル技工・総まとめ	
第8回	放射線の基礎知識：放射線の定義、種類、単位、特徴、および医学以外での利用方法について学ぶ。	
第9回	歯科診療における放射線：歯科放射線学について概説し、歯科衛生士と放射線の関わりを学ぶ。医学、とくに歯学における放射線治療の有効利用方法を学ぶ。	
第10回	放射線の人体への影響：放射線が細胞に照射されてから人体に影響が出現するまでの過程を、放射線物理学と放射線生物学の観点から学ぶ。	
第11回	エックス線画像の形成：放射線のひとつであるエックス線の発生と減弱・吸収のメカニズムを理解し、エックス線画像の形成過程を学ぶ。	
第12回	エックス線画像検査：歯科衛生士が関与するエックス線検査について、その原理、手法、補助について学ぶ。課題を与え、レポートを提出させる。	
第13回	画像診断：歯や顎骨の正常解剖を理解し、それらがエックス線画像でどのように描出されているのかを知る。そして、異常像の画像診断について学ぶ。	
第14回	放射線防護：歯科診療に欠かせないエックス線検査において、歯科衛生士が被曝しない手法を学ぶ。同時に、患者の被曝低減措置を学ぶ。	
第15回	放射線治療：口腔がんに対する放射線治療について、その原理、方法、治療成績、歯科衛生士として留意する点を学ぶ。理解度の筆記試験を行う。	
履修上の注意	予習は不要です。配布プリントを読んで復習して下さい。(歯科放射線学)	
成績評価	定期試験・小テスト(歯科理工学)	定期試験60%、課題レポート40%(歯科放射線学)
	単位認定者 松岡 村上	
テキスト	医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯科材料 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論(歯科理工学) 永末書店 歯科衛生士講座 歯科放射線学(歯科放射線学)	
参考図書 その他		

科目名	臨床実習Ⅰ
講師	各施設実習指導者
学年・期	2年生後期、8単位、360時間
実習目標	医療に携わる者としての自覚を持ち、学内で習得した知識・技術・態度を活かし、一般治療の準備及びアシスタントワークを行うために必要な実践力を身に付ける。
実習計画	
実習目的	臨床の現場において歯科診療の流れ、歯科衛生士の業務について習得する。
	診療所では歯科医師を中心にチームワークの中で、患者さまとの信頼関係を築き、診療活動を行っている。その現場でチームの一員としてマナー・規則を守り、学校で学んだ基礎知識・技術に基づき、臨床実習を通じて歯科衛生士としての知識・技術・品格の向上と、臨床現場で通用する実践力、応用力、患者対応力を身につける。
実習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみを整えることができる。 ・実習生としてふさわしい言葉遣いができる。 ・意欲的に実習に取り組むことができる。 ・積極的に質問する事ができる。 ・指導者の方への報告・連絡・相談ができる。 ・清潔・不潔を理解し、スタンダードプリコーションを実践できる。 ・手指の手洗い、消毒ができる。 ・器具の性質に合わせた消毒・滅菌ができる。 ・一般治療に必要な器材の名称・用途が説明できる。 ・一般治療に必要な器材の準備・片付けができる。 ・患者一人ひとりに合わせて誘導することができる。 ・患者に合わせたコミュニケーションがとれる。 ・共同動作が実践できる。 ・印象採得の準備・補助ができる。 ・概形印象・対合の印象採得ができる。 ・セメントの準備・練和ができる。 ・一般治療の術後説明ができる。 ・臨床現場での歯科衛生士の役割を知る。 ・患者の情報収集・情報分析、計画立案を考える事ができる。
履修上の注意	常に社会人としての姿勢を忘れずに責任をもって行動すること。実習指導者や患者様への言葉づかいに注意し、服装や容姿にも気を配り、しっかりと挨拶ができ、好感もてる態度で臨むこと。積極的な態度で臨み、実習指導者の指導を受けながら教科書や参考図書を用いて臨床での疑問をできるだけ早い時期に解決できるように心がけること。臨床実習終了後、実習報告会を実施する。
成績評価	実習評価表に基づき、出席状況、情意面・知識面・技術面、およびレポート等の提出状況について実習指導者と本校教員が判定する。単位認定者：久保田千尋
テキスト	
参考図書 その他	臨床実習要項

科目名	摂食嚥下リハビリテーション I	
講師	角野 公紀 清水 豊子	講師は歯科衛生士養成機関において10年以上の教育歴、歯科臨床において10年以上の実務経験を有する。歯科衛生士が業務を行う上で対象とする主要な疾患について、実際の臨床と関連づけて講義する。(角野)
学年・期	2年生前期, 2単位, 30時間(講義・演習)	

講義目標 摂食・嚥下・咀嚼機能の評価と機能障害、およびそれらに対するリハビリテーションについて理解する。

授業計画	内容
第1回	摂食嚥下リハビリテーション総論1(リハビリテーションと口腔ケア)
第2回	摂食嚥下リハビリテーション総論2(リハビリテーションと口腔ケア)
第3回	摂食嚥下リハビリテーション総論3(リハビリテーションと口腔ケア)
第4回	摂食嚥下リハビリテーション各論1(摂食嚥下障害の病態)
第5回	摂食嚥下リハビリテーション各論2(摂食嚥下障害の病態)
第6回	摂食嚥下リハビリテーション各論3(摂食嚥下障害の評価)
第7回	摂食嚥下リハビリテーション各論4(摂食嚥下障害の評価)
第8回	摂食嚥下リハビリテーション各論5(口腔衛生管理)
第9回	摂食嚥下リハビリテーション各論6(摂食嚥下訓練)
第10回	摂食嚥下リハビリテーション各論7(摂食嚥下訓練)
第11回	摂食嚥下リハビリテーション 歯科衛生士の役割1
第12回	摂食嚥下リハビリテーション 歯科衛生士の役割2
第13回	摂食嚥下リハビリテーション 歯科衛生士の役割3
第14回	摂食嚥下リハビリテーション 歯科衛生士の役割4
第15回	摂食嚥下リハビリテーション 歯科衛生士の役割5

履修上の注意

成績評価	レポートおよび定期試験 単位認定者：角野
テキスト	医歯薬出版 歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 第2版 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学
参考図書 その他	第11回～15回 講師：清水豊子

科目名	臨床検査	
講師	東條 文昭	総合病院にて臨床検査技師として従事後、歯科医師を志し、3年次編入にて医学部入学。卒業後は歯科医師として一般歯科はもちろん、検査学、病理学講座に在籍。他専門学校でも講義をしている。
学年・期	2年生前期、2単位、30時間（講義）	

講義目標 検査のしくみやデータなどの理解を深め、国試のみならず臨床に出ても視野を広げられるようにする。

授業計画	内容
第1回	臨床検査と歯科衛生士の役割
第2回	生理機能検査
第3回	血液学的検査①
第4回	血液学的検査②
第5回	感染症検査
第6回	肝機能の検査
第7回	腎機能の検査
第8回	糖尿病の検査
第9回	代謝・内分泌疾患の検査
第10回	免疫・血清学的検査①
第11回	免疫・血清学的検査②
第12回	病理学的検査
第13回	画像検査
第14回	口腔領域の臨床検査①
第15回	口腔領域の臨床検査②

履修上の注意 筆記用具・ノート・教科書を準備する

成績評価 出席および定期試験 単位認定者：東條

テキスト 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 臨床検査

参考図書
その他

科目名	College Hour (総合学習) II
講師	久保田 千尋 外部講師
学年・期	2年生通年, 2単位, 60時間 (講義・演習)

講義目標 歯科衛生士としての総合的な学力を育成することを目的とする。各テーマに添って授業を展開し学習目標の到達を目指す。社会人としての素養の育成としても構成している。

授業計画	内容
第1回	歯科臨床概論Ⅰ (歯科診療と歯科診療所/歯科診療の流れ)
第2回	歯科臨床概論Ⅱ (小児歯科、矯正歯科、口腔外科/歯科保存、歯周治療、歯科補綴、障がい者歯科、高齢者歯科)
第3回	臨床実習前セミナーⅠ
第4回	歯科衛生過程Ⅱ (College HourⅠの学びの振り返りと各ステップについて/歯科衛生アセスメント)
第5回	歯科衛生過程Ⅱ (歯科衛生診断/歯科衛生計画立案～評価)
第6回	臨床実習前セミナーⅡ
第7回	臨床実習前セミナーⅢ
第8回	臨床実習前セミナーⅣ
第9回	臨床実習前セミナーⅤ
第10回	実技確認 (歯科臨床と診療補助から治療別のセッティングと手順)
第11回	歯科健康教育Ⅰ
第12回	歯科健康教育Ⅱ
第13回	歯科健康教育Ⅲ
第14回	歯科健康教育Ⅳ
第15回	歯科健康教育Ⅴ

履修上の注意

成績評価 レポート提出、また意欲や態度を評価し単位認定をおこなう。 単位認定者：久保田

テキスト

参考図書 その他 オムニバスで行われる授業であるため、その都度配布資料等あり。 1回…90分×2(180分)とする